

科目名	作業療法評価学演習											
科目名(英)	Introduction to OT Assessment ; Practice											
単位数	2	時間数	60時間	担当者	松田 茂							
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務							
対象学科・学年	作業療法学科 2年											
授業概要	1. リハビリテーション医療の中での作業療法評価の目的と流れを理解する。2. 評価法の種類と方法を知る。3. 評価結果の意味するものを学ぶ。4. 収集した情報より全体像把握・ゴール設定・プログラム立案へと結びつける											
授業形式	講義:	<input type="radio"/>	演習:	<input type="radio"/>	実習:	<input type="radio"/>	実技:	<input type="radio"/>	※ 主たる方法:	<input type="radio"/>	その他:	<input type="checkbox"/>
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>			各評価を実施できるようになる						
	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>				評価結果の意味するものを説明できる						
	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		収集した情報より全体像把握・ゴール設定・プログラム立案へと結びつける事が出来る						
テキスト・教材 参考図書	1. 標準作業療法学 作業療法評価学 2. 神経診察クローズアップ 3. ICFの理解と活用 4. 標準作業療法学 臨床実習とケーススタディ											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	オリエンテーション 面接・観察・記録					行った評価法の復習					
	2	反射検査 脳神経検査					行った評価法の復習					
	3	感覚検査					行った評価法の復習					
	4	筋緊張・協調性検査 上肢機能検査					行った評価法の復習					
	5	意識状態の評価 動作分析					行った評価法の復習					
	6	摂食嚥下機能検査 呼吸機能検査					行った評価法の復習					
	7	心電図のみかた ケーススタディのオリエンテーション					行った評価法の復習					
	8	ケーススタディ					担当するケースについてグループで再学習					
	9	ケーススタディ					情報収集、プログラム作成					
	10	ケーススタディ					情報収集、プログラム作成					
	11	ケーススタディ					情報収集、プログラム作成					
	12	ケーススタディ					情報収集、プログラム作成					
	13	ケーススタディ					情報収集、プログラム作成					
	14	ケーススタディ					発表の準備					
15	発表											
評価方法	(1)ケーススタディはレポートして提出する (2)定期試験(筆記試験)を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合					
	定期試験(筆記)	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>				50%					
	発表・レポート	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		50%					
履修上の注意	最終日には、グループで発表を行います。											

科目名	身体障害作業療法学演習						
科目名(英)	OT for Physical Dysfunction ; Practice						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	老川 良輔		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院に作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 2年生						
授業概要	この授業は、実際作業療法を行う上で何がクライアントにとって必要なことかを考える授業である。その為には基礎医学、臨床医学、作業療法理論、基礎作業学実習、作業療法評価学を統合する必要がある。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				身体障害の概念を理解する。	
	○	○				身体障害に対する作業療法の考え・役割・流れを理解する。	
	○	○				作業療法の対象となる代表的な疾患について理解する。	
	○	○				様々な疾患と障害に対する作業療法の具体的方法を理解する。	
テキスト・教材 参考図書	①ゴールドマスターテキスト身体障害作業療法学(MEDICAL VIEW)②身体領域の作業療法 第2版(中央法規)③病気が見える vol.7 脳・神経(メディックメディア) ④オリジナルテキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	【疾患別】各論 頭部外傷(臨床像と作業療法) 【疾患別】各論 脊髄損傷①(疫学・分類・障害像)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと	
	2	【疾患別】各論 脊髄損傷②(疫学・分類・障害像) 【疾患別】各論 脊髄損傷③(作業療法)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと 頭部外傷の小テストを行うため、準備をすること	
	3	【疾患別】各論 脊髄損傷④(作業療法) 【疾患別】各論 脊髄損傷⑤(作業療法)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと	
	4	【疾患別】各論 脊髄損傷⑥(作業療法) 【疾患別】各論 神経・筋の異常【1】パーキンソン病①(病態と臨床像)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと 脊髄損傷の小テストを行うため、準備をすること	
	5	【疾患別】各論 神経・筋の異常【1】パーキンソン病②(作業療法) 【疾患別】各論 神経・筋の異常【1】パーキンソン病③(作業療法)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと	
	6	【疾患別】各論 神経・筋の異常【1】パーキンソン病④(作業療法) 【疾患別】各論 神経・筋の異常【2】筋萎縮性側索硬化症(臨床像と作業療法)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと パーキンソン病の小テストを行うため、準備をすること	
	7	【疾患別】各論 神経・筋の異常【3】脊髄小脳変性症(臨床像と作業療法) 【疾患別】各論 神経・筋の異常【4】多発性硬化症(臨床像と作業療法)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと 中間試験:第1回~6回の内容の準備を行うこと	
	8	【疾患別】各論 神経・筋の異常【5】ギランバレー症候群(臨床像と作業療法) 【テスト】第1回~第6回の内容に関する中間試験					
	9	【疾患別】各論 関節リウマチ①(病態と臨床像) 【疾患別】各論 関節リウマチ②(病態と臨床像)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと	
	10	【疾患別】各論 関節リウマチ③(作業療法) 【疾患別】各論 関節リウマチ④(作業療法)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと 関節リウマチの小テストを行うため、準備をすること	
	11	【疾患別】各論 手の末梢神経損傷①(病態と臨床像) 【疾患別】各論 手の末梢神経損傷②(病態と臨床像)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと	
	12	【疾患別】各論 手の末梢神経損傷③(作業療法) 【疾患別】各論 手の末梢神経損傷④(作業療法)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと	
	13	【疾患別】各論 骨折①(総論) 【疾患別】各論 骨折②(総論)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと 末梢神経損傷の小テストを行うため、準備をすること	
	14	【疾患別】各論 骨折③(上肢:橈骨遠位端骨折の臨床像と作業療法) 【疾患別】各論 骨折④(下肢:大腿骨頸部骨折の臨床像と作業療法)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと	
15	【疾患別】各論 内部障害①(心疾患の臨床像と作業療法) 【疾患別】各論 内部障害②(呼吸器疾患の臨床像と作業療法)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと 定期試験:第7回~14回の内容の準備を行うこと		
評価方法	(1)授業の中で小テストを複数回実施する。(2)授業の中で中間試験を実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	中間試験・定期試験	◎					80%
	小テスト	◎					20%
履修上の注意							

科目名	発達障害作業療法学演習									
科目名(英)	OT for Developmental disorder ; Practice									
単位数	1	時間数	30	担当者	竹中 祐二					
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院・児童福祉施設で作業療法士として勤務					
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部2年									
授業概要	1. 人間発達学で学んだ知識と発達障害作業療法学で学んだこと、そして実際の介護体験実習で学んだことを整理する。 2. 発達障害分野の各疾患について学ぶ。 3. 発達障害分野の各疾患に対する作業療法の知識を学ぶ。 4. 対象児者や家族の成長やライフサイクルの変化に対応した関わりについて学ぶ。 5. 介護体験実習Ⅱで、こどもたちの特徴を考え、こどもたちが楽しめる遊びや活動を提供する。									
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:	△	実技:	△	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				人間発達学で学んだ発達過程、発達領域に関する知識を作業療法評価に活用できる。				
	○	○				代表的障害(知的障害、筋ジストロフィー、ダウン症、二分脊椎等)について臨床像を説明することができる。				
	○	○				上記障害の治療、指導、援助内容を考えることができる。				
	○	○		○		特別支援学級での介護体験実習に参加し、児童・生徒と安全に配慮しながら、遊びや活動等を提供できる。				
テキスト・教材 参考図書	教科書:作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学 改訂第2版、メディカルビュー、2015 参考文献:岩崎 清隆・他、発達障害と作業療法[実践編]、三輪書店、2001 作業療法学全書 改訂第3版 第6巻「作業治療学3発達障害」、協同医書出版社、2010									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	介護体験実習の振り返り(グループワーク)								
	2	介護体験実習の振り返り(まとめ)								
	3	知的障害に対する作業療法(知的障害とは・評価)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します				
	4	知的障害に対する作業療法(アプローチの実際)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します				
	5	摂食嚥下障害に対する作業療法(嚥下障害とは・評価)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します				
	6	摂食嚥下障害に対する作業療法(アプローチの実際)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します				
	7	筋ジストロフィーに対する作業療法(筋ジストロフィーとは・評価)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します				
	8	筋ジストロフィーに対する作業療法(アプローチの実際)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します				
	9	ダウン症に対する作業療法(ダウン症とは・評価)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します				
	10	ダウン症に対する作業療法(アプローチの実際)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します				
	11	二分脊椎に対する作業療法(二分脊椎とは・評価・アプローチの実際)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します				
	12	分娩麻痺に対する作業療法(分娩麻痺とは・評価・アプローチの実際)				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します				
	13	介護体験実習Ⅱ(グループワーク)								
	14	介護体験実習Ⅱ(グループワーク)								
15	まとめ									
評価方法	(1)レポートを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	○	○				80%			
	レポート	○	○		○		20%			
履修上の注意	特別支援学級での2回の介護体験実習を12月ごろに実施する。日程は調整の上、告知する。 その他、必要なものについては事業の中で提示をします。									

科目名	精神障害作業療法学Ⅱ						
科目名(英)	OT for Psychological Disorder Ⅱ						
単位数	4	時間数	60時間	担当者	協元 啓行		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部2年						
授業概要	①精神障害作業療法の評価と計画を理解する ②精神障害作業療法の基本的な実践を理解する ③疾患の障害特性と作業療法の実際を理解する						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				精神障害作業療法の評価と計画を説明できる。	
	○	○				精神障害作業療法の基本的な実践を説明できる。	
	○	○				疾患の障害特性と作業療法の実際を説明できる。	
	○	○		○		事例演習を通して作業療法計画の立案を体験する。	
テキスト・教材 参考図書	①香山明美他編:生活を支援する精神障害作業療法-急性期から地域実践まで医歯薬出版 ②オリジナル資料 参考文献:1)岡岡詔子他編集 日本作業療法協会監修:作業治療学2 精神障害(作業療法学全書)。協同医書出版社 2)石井良和他編:精神障害領域の作業療法。中央法規 3)松井紀和編著:精神科作業療法の手引き。牧野出版 4)屋田源四郎著:統合失調症患者の行動特性。金剛出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 精神障害作業療法の実際				教科書を読み、予習を行う。	
	2	急性期作業療法の考え方と実際 急性期の状態像の理解				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	3	急性期の作業療法(導入) 急性期の作業療法(導入)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	4	急性期の作業療法(評価) 急性期の作業療法(評価)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	5	急性期の作業療法(評価演習) 急性期の作業療法(評価演習)				面接演習のための準備を行う。	
	6	急性期の作業療法(プログラム) 急性期の作業療法(プログラム)				面接演習の結果をまとめ、レポートを作成する。	
	7	回復状態の評価指標 回復状態に応じた支援				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	8	退院支援の考え方と実際 退院支援の考え方と実際				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	9	疾患、障害特性と作業療法の実際(統合失調症) 疾患、障害特性と作業療法の実際(統合失調症)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	10	疾患、障害特性と作業療法の実際(気分障害) 疾患、障害特性と作業療法の実際(気分障害)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	11	疾患、障害特性と作業療法の実際(パーソナリティ障害) 疾患、障害特性と作業療法の実際(神経症性障害)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	12	疾患、障害特性と作業療法の実際(摂食障害) 疾患、障害特性と作業療法の実際(物質依存性障害)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	13	事例演習(グループワーク) 事例演習(グループワーク)				事例検討のまとめ作業を行う。	
	14	事例演習(グループワーク) 事例演習(グループワーク)				事例検討のまとめ作業を行う。	
15	事例演習(発表) まとめ				事例検討の結果をまとめ、グループ毎に発表しレポートを作成する。		
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎		◎		20%
履修上の注意	※その他の参考文献は、授業内資料でその都度提示していく。						

科目名	老年期障害作業療法学									
科目名(英)	OT for Aging Adults									
単位数	2	時間数	30時間	担当者	早川 由加里					
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	健施設にて作業療法士として					
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 2年生									
授業概要	日本の急速な高齢化に対応する為、この科目では高齢者の特徴や使用出来る制度、評価やリハビリテーションについて学ぶ。高齢者とそれを取り巻く環境・これから必要となることについて知り、臨床現場での評価実践やコミュニケーションを通して、自身に不足しているものを見出す機会も持つ。									
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:	○	実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				日本の高齢化の歩みと社会制度について学び、それを記述することが出来る。				
	○	○				高齢者の“老い”・“変化”についての特徴を10個以上列挙出来る。				
	○	○	○	○		老年期リハビリテーション・評価について説明が出来、臨床現場にて評価の実践を行うことが出来る。				
	○	○	○	○		講義・班活動・実習を通し、対象者や自分自身のことについて理解を深め、課題を見出すことが出来る。				
テキスト・教材 参考図書	1)小川敬之、竹田徳則 編:認知症の作業療法 ソーシャルインクルージョンをめざして 参考文献:1)松房利徳、新井健五 編:標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学 第3版. 医学書院.2016. 2)宮口英樹 監修:認知症を持つ人へのアプローチ -視点・プロセス・理論- . メディカルビュー社.2014. 3)藪脇健司 編:高齢者のその人らしさを捉える作業療法. 文光堂.2015.									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	オリエンテーション／コミュニケーション実習				事前に高齢者の特徴について調べてくる(1時間)				
	2	コミュニケーション実習／高齢社会の背景と現代社会、リハビリ、心身機能と評価				対象者と話す話題について事前学習を行ってくる(1時間)				
	3	認知症の作業療法①:認知症サポーター養成講座				主に対応、急増する認知症について事前学習を行う(1時間)				
	4	認知症の作業療法②:概論				認知症について事前学習を行う(1時間)				
	5	認知症の作業療法③:評価				認知症の評価について事前学習を行う(1時間)				
	6	認知症の作業療法④:リハビリテーション				認知症のリハビリテーションについて事前学習を行う(1時間)				
	7	認知症の作業療法⑤:アプローチ				認知症へのアプローチについて事前学習を行う(1時間)				
	8	施設見学(評価)実習／高齢者保健福祉に関する制度・法律①				学外実習・発表。再度コミュニケーションの取り方や話題について事前学習を行う(1時間)				
	9	施設見学(評価)実習／高齢者保健福祉に関する制度・法律②				学外実習・発表。認知症の機能評価を実践する為、実施や説明の行い方について事前学習を行う(1時間)				
	10	施設見学(評価)実習／高齢者保健福祉に関する制度・法律／発表③				学外実習・発表。各テーマのプレゼンテーションを行う為、事前準備を行う(1時間)				
	11	現場のOTによる講義				実習や講義を通して学んだことを整理し、講義に臨めるよう事前学習を行う(1時間)				
	12	現場のOTによる講義				実習や講義を通して学んだことを整理し、講義に臨めるよう事前学習を行う(1時間)				
	13	高齢者体験実習／症例検討				実習に向かうにあたり、高齢者の気持ちや各種動作など身体的なことについて事前学習を行う(1時間)				
	14	高齢者体験実習／症例検討、講義のまとめ				全講義について重要な部分を確認しておく(1時間)				
15	まとめ				講義で使用した教科書・プリントの見直しを行う(1時間)					
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)レポートを実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)		○				80%			
	小テスト	○	○				10%			
	実習レポート	○	○				10%			
履修上の注意	■その他の参考文献等は、授業内資料でその都度提示する。 □場合により、講義内容の変更・順番の変更等を行う。									

科目名	高次脳機能障害作業療法学						
科目名(英)	OT for Higher Brain Dysfunction Assesment						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	安部 剛敏		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院で作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部2年						
授業概要	高次脳機能障害の概要と各障害の障害像について教授する。また、高次脳機能障害が影響する生活障害について考え 作業療法士の役割についても提示する。併せて、作業療法を実践するうえで必要な画像所見や評価方法の基本的な知識と技術、作業療法介入について教授する。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				高次脳機能障害の定義および典型症状を理解することができる。	
	○	○				高次脳機能障害を抱える人の生活障害をイメージすることができる。	
	○	○				各高次脳機能検査の実施を理解し、実施することができる。	
	○	○				各高次脳検査検査の結果を解釈し、説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	1) 鈴木孝治: 高次脳機能障害学領域の作業療法. 中央法規 2) 病気がみえる vol.7 脳・神経. MEDIC MEDIA						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	コースガイダンスおよび脳の機能解剖					
	2	脳画像の見方				振り返りシートで復習すること	
	3	高次脳機能障害総論				振り返りシートで復習すること	
	4	高次脳機能障害における作業療法の展開				振り返りシートで復習すること 小テストの学習をすること	
	5	意識・見当識障害に対する作業療法				振り返りシートで復習すること	
	6	注意障害に対する作業療法				振り返りシートで復習すること 小テストの学習をすること	
	7	記憶障害に対する作業療法				振り返りシートで復習すること	
	8	情動障害に対する作業療法				振り返りシートで復習すること 小テストの学習をすること	
	9	遂行機能障害に対する作業療法				振り返りシートで復習すること	
	10	失語症に対する作業療法				振り返りシートで復習すること 小テストの学習をすること	
	11	行為障害に対する作業療法				振り返りシートで復習すること	
	12	失認に対する作業療法				振り返りシートで復習すること	
	13	半側空間無視に対する作業療法				振り返りシートで復習すること	
	14	事例検討				振り返りシートで復習すること	
15	事例検討				振り返りシートで復習すること		
評価方法	(1)授業の中で小テストを4回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				20%
履修上の注意							

科目名	装具学										
科目名(英)	Orthotics										
単位数	2	時間数	30時間	担当者	野村 和代						
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院で勤務						
対象学科・学年	作業療法学科 2年										
授業概要	1・装具の目的と給付体系、装具療法における作業療法士の役割を理解する。 2・各種装具の装着目的及び目的達成のために配慮された形態の特徴を知る。 3・疾患に対する装具の役割および装具のチェックアウトの要点を学ぶ。 4・装具製作実習を通し、基本技術を習得し、装具の構造に対する理解を深める。										
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		実技:		※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				装具療法における作業療法士の役割とを理解し説明できる					
	○	○				装具の給付体系を説明できる					
	○	○				各種装具の部品、形態的特徴、目的を理解し説明できる					
	○	○				疾患に対しての装具の適応を理解し説明できる					
○	○		○		装具のチェックアウトと基本的な上肢装具の製作ができる						
テキスト・教材 参考図書	1)古川 宏 編:作業療法学全書第9巻 義肢装具学第3版. 協同医学出版社,2009. 参考文献:1)日本整形外科学会・日本リハビリテーション医学会監修:義肢装具のチェックポイント第7版. 医学書院,2008. 2)加倉井 周一 編:装具学第4版. 医歯薬出版社,2009. 3)坪田 貞子 編:動画でわかる熱可塑性スプリント作成マニュアル. 三輪書店,2012. 4)細田 多穂 監修:義肢装具学テキスト. 南江堂,2013.										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	装具総論 / 体幹装具					装具を理解するために必要な解剖・運動学の内容を復習。講義資料の復習。				
	2	下肢装具					装具を理解するために必要な解剖・運動学の内容を復習。講義資料の復習。				
	3	下肢装具					装具を理解するために必要な解剖・運動学の内容を復習。講義資料の復習。				
	4	上肢装具総論					装具を理解するために必要な解剖・運動学の内容を復習。講義資料の復習。				
	5	肩装具・肘装具					装具を理解するために必要な解剖・運動学の内容を復習。講義資料の復習。				
	6	手・指装具					装具を理解するために必要な解剖・運動学の内容を復習。講義資料の復習。				
	7	対立装具・把持装具					装具を理解するために必要な解剖・運動学の内容を復習。講義資料の復習。				
	8	疾患別適応(CVA/SCI/RA)					装具を理解するために必要な解剖・運動学の内容を復習。講義資料の復習。				
	9	疾患別適応(熱傷/末梢神経損傷/その他)					疾患別装具理解に必要な身体障害に関する内容を確認。講義資料の復習。				
	10	小テスト/装具製作実習説明					国家試験問題の振り返りと装具製作に必要な物品の準備。				
	11	装具製作実習(指装具と短対立装具)					製作する装具の要点を復習。装具製作に必要な解剖・運動学の内容を復習。				
	12	装具製作実習(指装具と短対立装具)					製作する装具の要点を復習。装具製作に必要な解剖・運動学の内容を復習。				
	13	装具製作実習(掌側カックアップ装具)					製作する装具の要点を復習。装具製作に必要な解剖・運動学の内容を復習。				
	14	装具製作実習(掌側カックアップ装具)					製作する装具の要点を復習。装具製作に必要な解剖・運動学の内容を復習。				
15	装具製作実習(掌側カックアップ装具)					製作する装具の要点を復習。装具製作に必要な解剖・運動学の内容を復習。					
評価方法	(1)授業の中で小テストを1回実施する。(2)製作実習を実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%				
	小テスト	◎	◎				10%				
	製作課題	◎	◎		◎		10%				
履修上の注意											

科目名	ADL支援学						
科目名(英)	Activities of Daily Living ; Practice						
単位数	2	時間数	60時間	担当者	野村 和代 安部 剛敏		
実施年度	2020 年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	作業療法士として病院で勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	1. 福祉用具の概念を学び、その給付体系を知る。2. 福祉用具に関する作業療法士の役割を理解する。 3. 福祉用具の適応とADLを関連付けて理解する。4. 基本動作の指導および援助を実践することができる。 5. 客観的臨床能力試験(OSCE)を用いてADLの介入技能を理解することができる						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		
			実技:	△	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				福祉用具の概念を学び、その給付体系を理解することができる	
	○	○				福祉用具に関する作業療法士の役割を理解することができる	
	○	○		○		福祉用具の適応とADLを関連付けて理解することができる	
	○	○	○			OSCEを用いてADLの介入技能を理解できる	
○	○				ケーススタディを通して臨床推論ができるようになる		
テキスト・教材 参考図書	1)長崎 重信 監修:作業療法コールドマスターテキスト 福祉用具学。メジカルビュー社、2019。2)市川 秀 他:福祉用具英文用語集。テクニオン協会、2008。3)藤井 浩美:日常生活活動の作業療法 中央法規 参考文献:1)テクニオン協会:住宅改修ハンドブック 自立支援のための住宅改修事例集。テクニオン協会、2008。2)テクニオン協会:福祉用具を上手に利用するためのQ&A。テクニオン協会、2008。3)木之瀬 隆 編集:作業療法学全書第10巻 作業療法技術学2 福祉用具の使い方・住環境整備 第2版。協同医書出版社、2009。4)中村 恵子:もっとらくらく動作介助マニュアル。医学書院 5)藤井浩美:日常生活活動の作業療法。中央法規 6)才藤 一:臨床技能とOSCE(機能障害・能力低下への介入編)。金原出版株式会社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	福祉用具概論 福祉用具供給システム 治療に関する機器(各種作業台、筋力増強・筋持久力改善に用いる機器)				制度に関する知識の整理と配布資料の整理と復習	
	2	治療に関する機器(巧緻性改善に用いる機器/発達領域で用いる機器/ ベッド周辺機器と移乗補助用具)				配布資料の整理と復習	
	3	生活に関する機器(排泄関連用具/入浴関連用具) 自助具(自助具導入の流れ)				配布資料の整理と復習	
	4	自助具(レポート)				自助具について疾患別レポート提出/配布資料の整理と復習	
	5	環境制御装置・意思伝達装置・スイッチの工夫				配布資料の整理と復習	
	6	住宅改修(住宅の役割と住宅改修の必要性/ 基本的な改修項目と実例)				配布資料の整理と復習/見学に向けて授業内容の振り返り	
	7	福祉機器展示場見学(レポート)				福祉機器展示場見学レポート提出	
	8	ポジショニングに対する介入技能				振り返りシートで学習してください。 指定動画を事前に確認ください。	
	9	起き上がりに対する介入技能				振り返りシートで学習してください。 指定動画を事前に確認ください。	
	10	起立・着座に対する介入技能				振り返りシートで学習してください。 指定動画を事前に確認ください。	
	11	移乗に対する介入技能				振り返りシートで学習してください。 指定動画を事前に確認ください。	
	12	歩行に対する介入技能				振り返りシートで学習してください。 指定動画を事前に確認ください。	
	13	ケーススタディ(脳血管障害)				振り返りシートで学習してください。	
	14	ケーススタディ(整形外科疾患)				振り返りシートで学習してください。	
15	まとめ						
評価方法	(1)レポートを数回実施する 60%(自助具レポート15%、設計書と自助具作品20%、見学レポート15%、宿題レポート10%)。 (2)定期試験(筆記)を実施する 40%。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				40%
	宿題・レポート	◎	◎	○	○		60%
履修上の注意							

科目名	地域作業療法学						
科目名(英)	Community Based Occupational Therapy						
単位数	4	時間数	60	担当者	井本理美(身障・老人) 小野仁(発達障害) 藤元啓行(精神障害)		
実施年度	2020	実施時期	後期	担当者実務経験	井本理美(病院や介護施設で作業療法士として勤務) 小野仁(病院・福祉施設で作業療法士として勤務) 藤元啓行(病院で作業療法士として勤務)		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	地域作業療法の理念と役割を理解するとともに、身体障害領域および介護保険領域、発達領域、精神領域における地域作業療法の知識基盤および実践的方法論を理解する。また、日本作業療法士協会が開発した生活行為向上マネジメントの基礎的な知識と実際の評価、マネジメントの方法について理解する。各領域での実践例についても直接触れ、その実践を理解する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	◎				地域作業療法の理念と役割を説明することができる。	
	◎	○				各領域の地域生活における生活障害の特徴を例を挙げて説明することができる。	
	○	○				学生を相手に生活行為向上マネジメントを模擬的に実施し、介入プランを立案することができる。	
	○	○				模擬症例を通して、地域生活におけるケアプランおよび作業療法プランを立案することができる。	
テキスト・教材 参考図書	1)福岡県社会福祉協議会編:障害者福祉情報ハンドブック2018 2)寺山 久美子編:作業療法学全書別巻 地域作業療法学. 協同医書出版社 3)香山明美他編:精神障害作業療法—急性期から地域実践まで 医歯薬出版 参考文献:1)精神障害の急性期作業療法と退院促進プログラム(日本作業療法士協会)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	身障・老人	地域リハビリテーション・地域作業療法概論			講義資料を通して復習しておくこと	
	2		社会資源について(介護保険制度、その他保健福祉サービス)			講義資料を通して復習しておくこと	
	3		ケアマネジメントについて(アセスメントからケアプラン立案までの流れ)			講義資料を通して復習しておくこと	
	4		地域作業療法の実際(作業療法士の活動内容)			講義資料を通して復習しておくこと	
	5		地域作業療法の実際(生活行為向上マネジメントについて)			講義資料を通して復習しておくこと	
	6	発達	地域作業療法の理念と役割、知識基盤			講義資料を通して復習しておくこと	
	7		知識基盤、発達障害児(者)と社会資源			講義資料を通して復習しておくこと	
	8		発達障害児(者)のケアマネジメント、在宅障害児(者)の評価・治療および生活支援			講義資料を通して復習しておくこと	
	9		事例紹介、環境整備・福祉用具			講義資料を通して復習しておくこと	
	10		事例演習			講義資料を通して復習しておくこと	
	11		精神保健福祉の現状と課題 精神障害領域における地域作業療法と評価			講義資料を通して復習しておくこと	
	12		日本作業療法士協会退院促進プログラムとアセスメント 精神障害者に対する地域生活移行・定着支援			講義資料を通して復習しておくこと	
	13		精神	地域作業療法のプロセスと評価			講義資料を通して復習しておくこと
	14			事例演習			講義資料を通して復習しておくこと
15	地域作業療法の実際(外部講師)			実際の実践に触れての感想を書く			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 定期試験は、各領域30点で合計90点満点で実施し、素点を100点満点換算し処理する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	職業関連活動						
科目名(英)	Occupational Therapy for Vocational Rehabilitation						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	渡辺みゆき		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	病院で作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	障害の有無に関係なく、働くことの意味について考えながら、現在の日本での障害雇用や就労形態、それを支える法制度や支援について学ぶ。また、職業リハビリテーションにおけるOTの役割と現状を知り、今後の就労支援のありかたについて理解を深める。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				職業の意義の3つの側面について説明することができる。	
	○	○				障害者の就労支援制度について、授業で取りあげたものを列挙することができる。	
	○	○				職業リハビリテーションにおける就労支援機関について主となるものを3つ挙げ、その概要を説明することができる。	
	○	○				職業リハビリテーションに関わる職種の中でのOTの役割特性について説明することができる。	
	○	○		○		障害者就労支援について関心のあるテーマを自ら調べて発表することができる。	
テキスト・教材 参考図書	1. 福岡県社会福祉協議会 編:福岡県障がい者福祉情報ハンドブック2020. 2. 配付資料 3. その他:参考となる文献および情報源は授業で紹介いたします。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、ディスカッション①職業について考える				(予習課題)事前にシラバスを読んでおく	
	2	ディスカッション②働くことの意味について考える および障害者の働く現場の紹介				(予習課題)働くことの意味について、意見を述べられるように考えておく	
	3	人と職業①職業の定義、意義、分類、職業選択②職業的発達と理論				(復習課題)職業の意義、職業選択の際の法的制約、職業発達理論を理解し、覚える	
	4	職業適性①職業興味検査および厚労省編一般職業適性検査実施				(復習課題)それぞれの検査の目的・特徴を確認しておく	
	5	職業適性②各検査結果のまとめおよび職業適性				(復習課題)職業適性検査でわかることと職業適性の意味について確認しておく	
	6	障害者と職業①障害者の定義、職業の意義、就労形態				(予習課題)障害者とはどのような人なのか説明できるように考えておく	
	7	障害者と職業②就労の現状、職業リハビリテーション①歴史・定義				(復習課題)法定雇用率および現状、職業リハの定義を確認しておく	
	8	職業リハビリテーション②法制度、就労支援機関、各種サービス				(復習課題)主要な法制度、就労支援機関およびそのサービスの概要を確認しておく	
	9	職業リハビリテーションとOT①OTの役割、目的、就労リハゴール、評価の領域				(復習課題)OTが働く分野およびそれぞれの役割、リハゴールとしての就労について確認しておく	
	10	就労支援の実際(1)福祉的就労施設における就労支援(※)				(予習課題)福祉的就労支援施設の種類・内容を調べておく	
	11	就労支援の実際(2)発達障害分野における就労支援(※)				(予習課題)発達障害の障害特性について調べておく	
	12	就労支援の実際(3)精神障害分野における就労支援(※)				(予習課題)精神障害の障害特性について調べておく	
	13	就労支援の実際(4)身体障害分野における就労支援(※)、職リハとOT②OTの評価				(予習課題)身体障害の原因の一つである脳血管障害の障害特性について調べておく	
	14	課題発表、まとめ				(予習課題)課題発表と質問に対応できるように準備しておく	
15	まとめ						
評価方法	(1)発表およびレポートを各1回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○					80%
	レポート	○					10%
	発表	○			○		10%
履修上の注意	授業は配付資料を基に進めます。その他、学生同士でのディスカッションや映像資料などの活用、専門分野の特別講師による講義(※)も取り入れます。最終回に個人課題の発表および課題レポートの提出をしてもらいますので、計画的に準備を行ってください。						